

鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 54号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2008. 12. 14
編集 芳村恵子
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

元気だよー

清水 成眞

皆さん、元気でお過ごしでしょうか。私といえば、毎日、毎日仕事に追われているような状態が続いています。つまり、人間らしい生活をしていません。「ゆとり」「癒し」など無縁の毎日が続いていますので、もう少し「ゆっくり」とした時間を持てるように努力を続けています。

青少年育成のほうも、何か活動をしなくてはと考えていますが、「子どもたちへの声かけ」程度しかできない状態です。

三朝町で、おそらく来年度からになると思いますが「三朝町学校支援推進協議会」の働きかけで、ボランティアを募集していましたので、早速応募いたしました。

「三朝町学校サポート隊」という名前で学校を色々な面からサポートする方を募集していました。これは、今までにない新たな取組として注目されています。地域と学校が協力して子どもたちの為に何ができるのか、それがテーマだと思います。

話は変わりますが、最近、孫ができました。やはり可愛いものです。泣くと困るので、機嫌のいい時だけしか近づかないようにしています。(笑)

最近、赤ちゃんから力をもらっているような気がします。

2週間に一回か、一ヶ月に一回ぐらいしか顔を見ることが出来ませんが、孫がやってくると家庭が明るくなります。

子どもの力は素晴らしい。

これから、寒くなりますが、なるべく外に出て子どもたちの笑顔に接して、子どもたちから、生きる力を吸い取ってこようと思っています。妻に話したら「あんたは吸血鬼か。」と言われました。

お後がよろしいようで。



小さな旅

東 邦子

10月から11月にかけて、私にとっては超多忙な日が続きました。やっと一段落し、ポツカリと空白になった日、「今日は天気もいいし、紅葉でも見に行こうか」という夫の一声で、サンドイッチを買って車に乗り込みました。

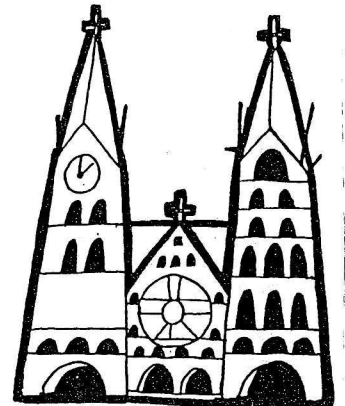
新しく開通した姫鳥線の一部を走り、粟倉まで行きました。将来は高速道路になるという道路でしたが、やや路幅も狭く、トンネルも多く、高速道路になるという想像が出来ませんでした。

前から一度行ってみたいと思っていた「オルゴール館」に行ってみました。山の中を走る道路を15分程行くと、まるでおとぎの国に来たのかと思うようなトンガリ屋根の建物が現れました。

ひょっとしたら青い鳥がいるかも・・・岡山からの10人程の団体さんがまもなく引き上げ、夫と二人の貸切状態になりました。

期待していたオルゴールの音色は、年月を経てきたにもかかわらず、夢のような音色を奏でていました。丁寧な係りの人の説明に納得しながら、ゆっくりとしたステキな時間を過ごすことができました。

この施設は何年か前にあった“ふるさと創世基金(?)”1億円で造られたそうです。入場者が少ないのは少々気になりましたが、残して欲しい施設だと思いました。路沿いの木々の紅葉も、ススキの原も、心に残っています。



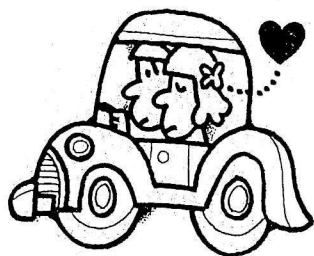
裏面に続く

残忍な方法で平気で人を殺したり、お年寄りの優しさにつけこんだ詐欺、大学生による大麻汚染など、暗くて胸の痛むニュースばかりが伝えられています。まるで、ゲームか何かの遊び感覚で行われている犯罪。命の重さを考える事は勿論のこと、その陰でどれだけの人が涙を流しているか、考えてみたことがあるのでしょうか。自分のことしか考えていない人が増えているんですね。

常識・非常識のこと、人間としてしてはいけないこと、人は一人では生きていけない事等、幼児の頃から我々が伝えていかなければいけないのではないのでしょうか。

うん十年生きてきた私達の責務だと思ふようになりました。

そんな事を思いながら、薄暗くなった山道を帰路に着きました。



難があった時にこそ『ありがとう』

芳村恵子

研修会は私たちが活動する上でなくてはならない知識や技術を身につけてくれます。普段にはない特別な時を仲間と過ごす有難い時間です。

そして後の懇親会、いわゆる「飲みにケーション」は、研修会の真面目な表情とは打って変わって、もしかしたら素の表情で屈託なく過ごせるものです。

この間の「飲みにケーション」、またまた物凄くけど当たり前かもしれない言葉を耳にしました。

それは、「難があった時にこそありがとう」でした。一般的に、ありがとうとは「人の親切や好意などに対して感謝の気持ち」とあります。でも、「災いや困った時にこそありがとう」なのだということです。

でもなるほど・なるほどです。

感謝の時のありがとうは、心が温かくなり笑顔で幸せを感じさせてくれます。これは大切に誰もが感じる最高の言葉です。

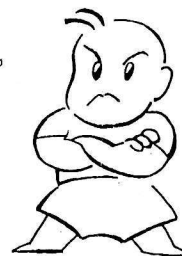
それに比べて難があった時は、眼を見開き、頭や体をフルに活用し、その難を乗り越えようとします。まさに「ピンチはチャンス」という言葉と同様です。

その難を乗り越えた時の達成感は、正に「ありがとう」と叫びたくもなるものです。

もしかしたら、この方が本当に神から与えられた宿題とそこご褒美なのかも知れません。

最近この手のありがとうを感じる人が多いように思います。

一難去ってまた一難の日々です。



皆さんのお手元に研修会と忘年会のお知らせが届いていることと思います。

鳥取県青少年育成アドバイザーとして、そして「地域のおじさん、おばさん」として子ども達を守っていくためにも、今回の研修は是非参加したいものです。

『「地域のおじさん、おばさん運動」の基本は、近隣の子もたちと向き合い、温かく見守ろうという気持ちです。』とあります。

見つめる眼、心のこもった一言がかけられるよう、学びあるひと時を過ごしたいものです。

編集後記

月日の経つのは本当に早いもので、今年ももうわずかになりました。

お歳暮を送ったり、受け取ったりしながら、一年間のお礼の言葉を交し合っています。

街路樹もすっかり丸坊主になってしまいました。そろそろ年賀状を仕上げなければと、牛の絵を見つめています。

54号の通信の原稿依頼文を送らせて頂きました。楽しい原稿を有難うございました。

次回はゴロのいい、55号です。たくさんの原稿をお待ちしています。